

---

# 魔法学園生徒会

ゆべし

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

魔法学園生徒会

### 【コード】

N8612X

### 【作者名】

ゆべし

### 【あらすじ】

転校生の桜花咲紅が生徒会に入り魔法使いになって魔物退治するものがたりです。

## 転校

はじめまして！ゆべしと申します！小説書きたいなあ。と思って書いてみました！この物語は、学園ファンタジーとなっております！では、どうぞごらんあれ！（注意！これは女子校での物語となっております）

\*\*\*\*\*プロローグ\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*

桜が咲くころ、私は新しい学校に来ていた。「うわー・広いなあ」私は、おつかさぎへに桜花咲紅14歳、家族が事件に巻き込まれ、私、一人生き残った。そんな私に声をかけてくれたのがこの学園の理事長アリス・フェアリーデ。彼女の言うところここは施設みたいところらしい。「と、とりあえず、いつてみよ！えつと校舎はどこかな。」（広いから迷うなあ、あ！ひとがいるこえをかけてみよう！「あのー聞きたいことがあるんですけど、校舎はど、」そのとき、言葉を失った。（えつと、ここは普通の世界だよね、まさか魔法じゃ）「魔法だよ！」ポニーテールの少女が言った。「！！」「ああ、ごめん驚かして、あたしは、結木あおい、あんたは？」「あつ、えーと、今日転校してきた桜花咲紅です！」「ふーん・転校生ね、あれ？聞いてなかった？ここは魔法学校だつて」「絵！は、はい？ま、魔法学校？」こうして学園生活が始まった。

\*\*\*\*\*転校生\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*

その後、私はあおいさんに案内されて、理事室に向かった。「あ、あのーあおいさん、ひとつ聞いていいですか？」「あおいでいいよ！ぶつづにしゃべってー！」「じゃ、じゃあ、あおい！ひときいて

いい？」「何？」「理事長ってどんな人なの？」「うーん、そうだね、子供っぽいかな、」「へっこ、子供？」「みんなそういうよ、あってみればわかるから、じゃあ、あたしはここで！よかったら生徒会に入ってね！歓迎するから」「う、うん」「そういうとあおいはさっていった。（よし！入るぞ！）」「失礼します！」「はいるとそこには、校長がすわりそうないすに少女が座っていた「おーよくきた！まっておったぞ！」そのとなりには背が高く髪がくるんとした女性がたっていた。「お待ちしておりましたよ、紅さん」「は、はあ、」「紅は驚いていた。（かわいい！そのうえわたしより小さい！）紅も背はちいさいほうだが、それよりちいさかった。「は、はじめまして！桜花咲紅です！よろしくおねがいます！」「うむ、わたしはアリス・フェアリーデだ見てのとおり、この学園の理事長であるぞ！」「は、はあ、」「そして、私は、付き人のナビリア・ミルよ。よろしくね」「はい！」「では、私が案内いたしますわ。ついてきてくださいな」「あ、はい！では失礼しました！」「紅は、ナビリアについていき、理事長室をでた。「何かあったらまたくるのだぞ！。聞いてないか、あつ大事なことを話すのを忘れていた。まあ、よいか」「アリスはその後、どこかに消えていった。そのころ紅は（友達できるのかな、）とどきどきしていた。「ついたわよ、ここよ、」「いつの間にか、教室の前に立っていた」「さあ、入るわよ」「は、はい！」「みんな席について、紹介するはね転校してきた桜花咲紅さんよ。みんな仲良くね！」「は、はじめまして！よろしく願います！」「よろしくー」「よろしくねー」（よかった、うまくやっていけそう）そう思いながら席についた。\*\*\*\*\*つづく\*\*\*\*\*

転校（後書き）

なくなってしまうました。つづきをおたのしみ！

## 生徒会（前書き）

第2話目です。どうぞ！

## 生徒会

こうして、すぐクラスの人達と仲良くなれた。みんないい人だなあと思っていた。授業は難しくおいていかれそうになった。(よくわかるなあ・・・)1時間目がおわり、やっと休み時間になった。(はあ、やっと終わった。校内でも案内してもらおうかな・・・)近くの人に声をかけた。「あの、校内を案内してほしいんだけど、いいかな?」「えっ、うんいいよ、」「黒髪の人が答えた。こうして校内を案内してもらった。「教室、いっぱいあるんだね!なんだけか迷いそう」「うん、この学校は人数は少ないんだけど・・・なぜか教室は多いんだ。だから、その分のびのびと使えるの。」「へえ・・・そういえばこの学校何クラスあるの?」「うーん・・・各クラスあわせると、一学年3クラスかな、でも、一クラス20人程度何だ。」「へえそうなんだ、」「その中で私達のクラスはAクラス、もうひとつがBクラスなの」「最後のは?」それを聞いたとたん黒髪の人は暗いかおをした。「あ・・・3つめね・・・えっと・・・魔法クラス」「魔法クラス?じゃあほんとに魔法が使える人いるんだ!」「うん、でも実は、ほとんどの生徒が魔法を使うことができるんだよ。」「紅は驚いた。「え?うそ!そんなのきいてないよ?」「あ・・・理事長わすれてたんだ・・・」(よくあるのかな・・・)「それと、魔法クラスは、別名闇の教会っていうの、魔法クラスの人たちはもともと魔力を持っていて、その他の人たちは自ら持つ力を魔力に変えてもらった人たち。私もその一人。」「何でわざわざ魔力に変えてもらう必要があるの?」「それは、詳しくはしらない。生徒会や教師にしかわからないみたいなの」(生徒会、確かあおいがいつてたっけ?あおいにきけばわかるかな・・・)「あつそろそろ戻らないと・・・次の授業が・・・」そういいかけたとき、チャイムが鳴った。「やばい!いそごう!」「あ、うん、はしりながら、紅は生徒会のことを考えていた。

放課後、

「授業は5時間なんだね!」「うん・・・そういえば、名前聞くの忘れてた。なんていうの?」「琴吹葉月、葉月って呼んで」「うん、じゃあ葉月さっそくだけど、生徒会室に案内してくれない?」「うん、わかった。え、っと紅さん?」「紅でいいよ!」「あっじゃあ、紅、いこう!」「そういうと生徒会室に向かった。「生徒会室は2階にあるのよ」「へえ」よく見ると、まわりに「生徒会にはいりませんか?」「生徒会メンバー募集中」などのポスターがはってあった。「生徒会の人ってすくないの?」「うん、そうみたい。」「葉月は、入らないの?」「葉月は一瞬暗い顔をした。「わ、私は委員会にはいつているから、」「そうなんだ」「紅は気づいていた。葉月が暗い顔をしていたのを、(葉月、どうしたんだろう、)」「あつついた。ここよ、じゃあ私はこれで、寮で会いましょう。」「うん、ありがとね」(とりあえず、はいつてみるか)「しつれいします」生徒会にはどんなことが待っているのでしょうか、\*\*\*

## 生徒会（後書き）

途中で終わってもうしわけないです。またよるにこうしんするよてい  
いす。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8612x/>

---

魔法学園生徒会

2011年10月24日14時07分発行